

実績の内容	成果の内容
<p>4月 【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. 教養ゼミ体験学習実施計画の策定 前年度11月から引き続き、COC担当教職員が連携する6市町9地域と協議を重ね、H27年度の体験学習実施計画を策定した。</p> <p>2. 特別講座のプログラム策定 前年度11月から引き続き、COC担当教職員が、連携する地域、企業、行政などの講師と協議を重ね、実施計画及び講義内容の決定をおこなった。</p> <p>3. インターンシップのプログラム策定 前年度11月から引き続き、COC担当教職員が、連携する市町、地域と協議を重ね、プログラム実施を確認した。</p> <p>4. H27年度のCOC教育カリキュラムの決定 COC-WG、教務委員会、担当教員会議を開催し、本年度のCOC教育カリキュラムの検討・調整をおこなった。</p> <p>5. H27年度COC教育カリキュラムの開講 教養ゼミ、特別講座、インターンシップをシラバスに掲載し、受講する学生にガイダンスを実施した。</p>	<p>4月 【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>体験学習を出発点とした地域志向型教育の体系化をはかるため、生物生産学部の学部教育との連携を強めた。連携地域・市町のご支援を得て、地域を知る、地域と関わる、地域と協働する、の3段階を歩めるカリキュラム体系の構築を本格化させた。</p> <p>1. 教養ゼミ体験学習実施計画の策定 全体学習計画＝1、地域別学習計画＝10、地域・市町との授業協議回数(17×2＝34)</p> <p>2. 特別講座のプログラム策定 全体プログラム＝1、各講義計画＝7、講師との講座協議回数(11×2＝22)</p> <p>3. インターンシップのプログラム策定 全体研修計画・行程表＝1、地域別研修プログラム＝8、地域・市町との研修協議回数(14×2＝34)</p> <p>4. H27年度のCOC教育カリキュラムの決定 COC 年度別実施計画＝1、COC-WG の開催＝1、COC 関係教務委員会協議回数＝1、教養ゼミ担当教員会議＝2</p> <p>5. H27年度COC教育カリキュラムの開講 カリキュラム学生ガイダンス開催回数＝3</p>

<p>5月～7月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. 教養ゼミ体験学習の学習内容の再調整</p> <p>4月から引き続き、各受入れ地域と協議を重ねて、当日の体験内容、地域の方による講義の内容、スケジュール等の検討、再調整をおこなった。</p> <p>2. 教養ゼミ体験学習の実施</p> <p>教養ゼミ体験授業実施計画に基づき、7市町10地域で生物生産学部1年生全員を対象に10回の体験授業(各土日1日)を実施した。また、PBLに基づき、地域事前学習、事後学習、プレゼンテーション作成などの授業を並行して実施した。</p> <p>3. 体験学習の学生アンケート調査</p> <p>参加した1年生全員を対象に、学習内容、体験内容、体験時間、参加したことによる意識の変化等についてアンケート調査をおこなった。集めたデータをもとに、次年度の改善につながる分析をおこなった。</p> <p>4. 教養ゼミ体験学習発表会の開催</p> <p>7月1日、22日に、体験学習に参加した1年生がプレゼンテーションをおこなった。発表会には、受入れ市町・地域及び関係する教員が参加し、プレゼン内容について学生とともに相互評価をおこなった。</p>	<p>5月～7月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>COC 担当教員、コーディネーターが事前に参加教員に詳しく内容を説明し、意見を調整しながら教育内容の充実につとめた。PBL手法の導入によって、学生の自主的学習度合いを高め、教員は学生が体系化しやすいように指導できた。また、幅広い教員に地域志向型教育を体験してもらう場にもなった。これにより、地域体験が専門教育における地域志向型教育内容に結びやすくなった。</p> <p>1. 教養ゼミ体験学習の学習内容の再調整</p> <p>体験学習当日までにおこなう細かいスケジュール調整=10か所 講義マニュアルの作成=1か所 →地域の方から要望があり、COC教員が学生との間にたって講義内容の作成をおこなった。</p> <p>2. 教養ゼミ体験学習の実施</p> <p>教養ゼミ体験授業実施のべ回数=10カ所、10班、 PBL 授業実施コマ数=73、参加学生・教員・地域指導者数×コマ数=1,658</p> <p>3. 体験学習の学生アンケート調査</p> <p>学生アンケート回答数=104、分析結果=1</p> <p>4. 教養ゼミ体験学習発表会の開催</p> <p>学生発表会数=2、発表会全参加者数=290、市町・地域・教員参加数=55 グループ総プレゼンテーション数=10</p>
<p>4月～6月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. 中山間地域・島しょ部連携特別講座の開講</p> <p>特別講座実施計画に基づき、全学を</p>	<p>4月～6月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>地域志向型教育の実施に伴い、外部から様々な分野の専門家や実践家を招請して授業等を行ってもらった。その際、学生の勉強へ</p>

<p>対象に7回の講義を実施した。</p> <p>2. 特別講座の評価、改善 履修した学生には、そのつど感想を記入させ、最も興味のある講義のレポートを提出させた。学生が記述した内容を分析し、次年度の講義内容について検討した。</p> <p>3. 既存のフィールド教育科目の強化 COC事業開始以前からあるフィールド教育科目の内容の充実をおこなった。具体的には、『食料社会経済学演習』および『乗船実習』における地域の方を講師とした講義の回において、COC教員が講義マニュアルを作成した。</p>	<p>の動機づけ、興味関心を高めるために、担当教員が必要な資料を揃え、講義ノートの作成など、具体的な支援を行うようにしている。教材の開発に努めている。COC科目の教育効果を高めるために、既存のフィールド科目で行っている工夫を取り入れている。また、COC科目で得られた効果を既存科目に取り入れている。こうした取り組みによって、地域志向型教育科目がもつ弱さは、かなり改善されつつある。</p> <p>1. 中山間地域・島しょ部連携特別講座の開講 外部講師数＝11、講義コマ数＝8、講義総参加者数＝434</p> <p>2. 特別講座の評価、改善 提出レポート数＝140</p> <p>3. 既存のフィールド教育科目の強化 講義マニュアルの作成＝2</p>
<p>6月～9月 【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. インターンシップ実施の具体的調整 受入れ市町・地域・企業等と具体的な実施時期、実施内容、スケジュール等を協議した。</p> <p>2. インターンシップの学生ガイダンス実施 インターンシップ実施計画に基づき、学生へのガイダンスと事前学習をおこなった。</p> <p>3. インターンシップの実施 履修登録をした学生を連携する5市町9地域へ、それぞれ希望する箇所へ派遣し、インターンシップを実施した。実施地域の要望に応じて、受入れ</p>	<p>6月～9月 【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>地域志向型インターンシップは、教養ゼミ体験学習に比べ、より深い地域での体験を学生に提供することができた。また、受入れ地域は、学生を数日間泊まり込みで受け入れる体制やプログラムづくりをおこなうことができ、学生に継続的にプログラムを提供できる仕組みができた。</p> <p>一方、学生の応募者が増えたこと、派遣地域も増えたことから、運営方法を再検討する必要性が生じた。学生からのアンケート、受入れ地域に出向いての聞き取り、関係市町のご意見を踏まえて、マニュアル化をはかることとした。一般的企業に派遣するインターンシップとは多少性格が異なることから、地域との調整に手間取った。いかに順調に運営していくか</p>

<p>市町・地域と学 生が中心となって地 域振興・地方創生などをテーマにした ワークショップを開催した。学生は、報 告書を作成し大学に提出した。</p> <p>4. インターンシップの評価、改善 学生が提出した報告書を受入れ市 町・地域と大学が共有し、今年度実施 した内容の評価および改善点を検討 した。</p>	<p>のノウハウを早く蓄積していくことが重要であ る。</p> <p>1. インターンシップ実施の具体的調整 研修受入地域数=9、受入市町・地域研修 協議数(14×2)=28 学生との研修内容協議数(28×3)=84</p> <p>2. インターンシップの学生ガイダンス実施 ガイダンス参加学生数=30</p> <p>3. インターンシップの実施 研修実施地域数=9、研修先講師指導総コ マ数=374 研修参加(全学)学生数=28、研修実施地 域数=9 研修参加学生・教員数×コマ数=566</p> <p>4. インターンシップの評価、改善 研修報告数=28</p>
<p>4月～3月</p> <p>・地域・市町の要望に基づく広島大学 地域連携推進事業を実施し、研究成 果の活用・普及を行うべく、関係者で 協議を進めた。</p>	<p>4月～3月</p> <p>取り組み研究課題数=1、関係者協議回数 =5</p>
<p>4月～7月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. 円卓フォーラムの実実施計画の策定 連携する市町・地域・企業と調整を し、フォーラム実施計画を策定した。</p> <p>2. 円卓フォーラム開催の準備 COC担当教職員が、連携する市町・ 地域・企業と調整をしながら、フォーラ ムで議論する内容を検討し、当日に 報告する内容についてプレゼン資料 の準備等をおこなった。</p> <p>3. 円卓フォーラムの開催(7月〇日) 連携する市町・地域・企業・学生・教職</p>	<p>4月～7月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>全 学的には自己点検評価を実施していない が、本領域では、各活動を実施したら必ず関 係者からの評価や意見を集めた。分析結果に ついて公表した。7月に実施し た円卓フォー ラムは、学生、教員、連携市町の三者による 実績確認の場であり、評価の場である。円卓 フォーラムにおいて、コーディネータと特任助 教が中心に なって自己点検結果を示し、連 携市町による評価をお願いしている。</p> <p>1. 円卓フォーラムの実実施計画の策定</p>

<p>員が参加し、「地方創生の原動力、持続可能な地域志向型教育～地域・大学連携の今とこれから～」をテーマに議論した。</p> <p>円卓フォーラムは2部構成とし、第1部は学生の報告を中心とし、第2部は連携市町、学生、教職員を中心に議論し、自己点検・自己評価をおこなった。また、大学間連携を進めるため、県内のCOC+参加校とも連携した。</p>	<p>実施計画=1、調整対象数=20</p> <p>2. 円卓フォーラム開催の準備 プレゼンテーション準備数=4</p> <p>3. 円卓フォーラムの開催(7月22日) フォーラム参加者数=160</p>
<p>8月～2月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. 秋・冬の体験学習実施 連携市町・地域の要望に対応して、収穫や地域のお祭りなどに参加する現地体験学習を実施した。</p> <p>2. ワークショップ等の実施 連携市町・地域の要望に対応して、地域おこしや地方創生を考えるワークショップ等を実施した。</p>	<p>8月～2月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>体験学習、特別講座、インターンシップ等での活動を踏まえ、より幅広く地域の諸行事に参加したいという学生が増えた。連携地域と協力して提供した活動場面は次の通りである。なお、学生たちのなかには、自主的にボランティア活動に参加するものがあった。</p> <p>1. 秋・冬の体験学習実施 学生には、正規の科目以外にも地域志向型教育の機会を提供することができた。 体験学習実施数(地域数)=3、参加者総数=150</p> <p>2. ワークショップの実施 学生には、地域が抱える課題について、より深く考える機会と自分の意見を地域に向けて発言する訓練を行わせることができた。 ワークショップ開催数=4、地域での卒論発表回数=2</p>
<p>10月～12月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>1. COC教育事業の関係者へのアンケート及び聞き取り調査 教養ゼミ体験学習・インターンシップ等で連携した市町・地域、および担当</p>	<p>10月～12月</p> <p>【中山間地域・島しょ部対策領域】</p> <p>教養ゼミ、特別講座、インターンシップなどの実施を通じて得た学生のアンケートに加えて、連携市町、受入れ組織や機関からアンケートの回答を得た。合わせて対面式の聞き取り調</p>

<p>教員に事業内容の評価に関するアンケートをおこなった。連携した地町・地域を全て訪問し、COC事業の評価や次年度にむけた要望などを聞き取り調査した。</p> <p>2. アンケート・聞き取り調査の分析 調査内容をCOC担当教職員が整理、分析し、次年度の事業改善の方向性を検討した。</p> <p>3. 関係者間での情報共有 今年度の活動実績から得られた事業実績と改善内容は、COC-WG、教務委員会、担当教員会議で情報の共有をはかり、プログラムの仕組み改善をおこなった。</p> <p>4. 情報発信(年間を通じて) COC活動報告、円卓フォーラムの内容、各種アンケート結果などは、総合的に取りまとめてCOC-HPで随時公表した。 また、プレスリリースによる報道などもとりまとめるとともに、学会・地域イベントなどで学内外に広報した。</p>	<p>査を実施し、地域社会が求める地域志向型教育の内容把握を行った。</p> <p>1. COC教育事業の関係者へのアンケート及び聞き取り調査 COC 評価聞き取り調査(訪問先)数=17 アンケート調査先数(地域・市町)数=17、担当教員調査数=16</p> <p>2. アンケート・聞き取り調査の分析 教養ゼミ評価分析数=1、インターンシップ評価分析数=1、大学連携評価分析数=1 地方創生人材育成関係分析数=1、担当教員評価分析数=1</p> <p>3. 関係者間での情報共有 COC-WG開催数=1、教務委員会開催数=1、担当教員会議数=1</p> <p>4. 情報発信 HP情報量は300ページを超え、COC事業でおこなっている地域志向型教育活動の内容を学生に提供することができた。 ・HP容量=300ページ以上、HPリニューアル数=1 ・プレスリリース数=5、新聞・TV掲載報道数=10、 ・文教ニュース・速報記事数=5、雑誌への論文掲載数=1 ・地方創生人材育成をテーマとした学会開催と発表=1 ・東北被災県議会と学生の地方創生人材育成ワークショップ開催=1 ・地域青年会議所でCOC活動講演=1</p>
<p>1月～3月 【中山間地域・島しょ部対策領域】 1. 次年度の実施計画の検討 連携地域、連携地域等を訪問し、次年度のCOCプログラム(教養ゼミ、特</p>	<p>1月～3月 【中山間地域・島しょ部対策領域】 次年度学生に提供するプログラムの改善がおこなわれ、シラバスに教養ゼミ、特別講座、インターンシップを掲載した。また、コーディネ</p>

<p>別講座、インターンシップ等)について、実施計画の事前検討をおこなった。プログラムの改善を通じてシラバスに反映した。</p> <p>2. COC教育事業のマニュアル化の検討</p> <p>教養ゼミ体験学習やインターンシップのマニュアルを作成し、学生、教員、担当事務員が流れや手続きを把握しやすいようにした。また、学生が事前・事後学習に取り組みやすいように、手引書を作成するとともに、地域関係資料の準備をおこなうことにした。</p> <p>3. 体験学習でおこなう講義の進め方の検討</p> <p>体験学習の際に行う、地域の人たちによる授業(講義)の内容と進め方について、具体的に検討した。</p>	<p>ーター、特任助教、担当 教員、学生支援室などの関係者間の役割分担を明確化し、地域連携を軸にした教育プログラムを学部内でスムーズに運営していけるシステム、組織づくりを行った。</p> <p>1. 次年度の実施計画の検討 次年度教養ゼミプログラム検討案の作成</p> <p>2. COC教育事業のマニュアル化の検討 教養ゼミ実施の流れ(簡易マニュアル)作成数=1 地域志向インターンシップの流れ(簡易マニュアル)作成数=1</p> <p>3. 体験学習でおこなう講義の進め方の検討 地域の特徴に合わせた講義マニュアルの作成=3</p>
--	--